

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043(222)7207 番

2000.8.7. No.5177

## 四党合意 反対!

## 1047名闘争の勝利をめざす 8・22集会へ

8月22日(火)18時～ 労働スクエア東京

### 続開大会の強行

一〇四七名の解雇撤回闘争は、「四党合意」をめぐる重大な岐路に直面している。国労本部は、闘争団・家族や組合員の抗議の声をふみにじって、8月26日に続開大会を開こうとしている。それどころか本末を転倒させて、7・1臨大での闘争団・家族の必死の叫びを「暴力行為」と呼び、非難を繰り返している。

このようなやり方で続開大会を無理やり強行することに一体何の意味があるというのか。団結のひびがさらに拡大し、消しがたい溝・亀裂が一層深まることは目に見えているのだ。続開大会の強行は労働組合としては絶対にやってはならないことだ。

### すばらしい決起

7月1日の国労臨時全国大会で、闘争団・家族が、「無責任に私たちの人生を勝手に決めないで下さい!」と悲痛な叫び声をあげて激しく演壇につめよりにかけ上がった抗議、「占拠」したのは、自らの尊厳をかけた全く当然の行為であった。この必死の決起にこそが国労の闘う団結を守りぬいたのだ。

またそれのみならず、臨時大会での闘争団・家族の行動は、国労はもとより日本の労働運動の未来にとって、はかり知れない意味をもつすばらしい決起であった。われわれは、一〇四七名の一員として国労闘争団・家

族のこの決起を心から支持し、ともに勝利の日まで闘いぬく決意である。

### 四党合意の意味

「四党合意」は、13年に及ぶこれまでの闘いの全てを自ら否定し、首切りと国家的不当労働行為を是認せよと迫るものだ。それは、伝統ある国鉄労働運動を自らの手で葬れというに等しいもので、まさに全面屈服の強要に他ならない。一〇四七名闘争を潰し、国労の組織そのものを自己崩壊させようとする大陰謀だ。また、闘う労働運動の再生を求めて永年にわたって国鉄闘争を支援し続けてくれた全国の無数の仲間たちの闘いを雲散霧消させ、労働運動再興への芽を徹底して潰そうという狙いをもつ攻撃だ。まさに「四党合意」それ自身が労働組合への極めて悪質な支配介入に他ならない。

### 支援戦線の分岐

「四党合意」は国労の内部には消しがたい溝を生んだが、その影響はそれにとどまらず、全国の支援・共闘の戦線にも大きな分岐が生じている。

7月25・27日に開催された全労連大会では、「四党合意への

批判を明確にすべき」「四党合意を認めるかのような談話は撤回すべき」との発言や質問が相次ぎ、最終的に「JRに解決責任があることは明確である。この点で四党合意は重大な問題を含んでいると考える」との集約が行われた。

また7月30・31日の全労協大会では、議論の大半が国鉄闘争に費やされ、①JRに法的責任があることは明らかである、②闘争団・家族の意見を尊重し、合意形成を図る必要がある、③国労の統一と団結を守るために、条件整備が整わない場合は結論を急がないようにお願いする、との三点について、国労に要請することが確認された。社民党大会でも「四党合意は再検討すべき」との批判の声があがった。

### 事態の本質は?

「四党合意」をめぐる起きた衝突は、表面上は国労という一労働組合の内部における路線対立のように見えるが、その本質は、階級的労働運動を根絶しようという攻撃と、闘う労働運動を再興しようとする闘争の非和解的な衝突である。国鉄闘争は、否応なく日本の労働運動全体にはかり知れない影響を与えている位置をもっている。

問われなければならないことは、このような事態がなぜ生みだされたのかということだ。「四党合意」受入れは、国労が

十数年にわたって組合員や支援

に訴えつづけ、裁判や労働委員会でも主張してきたことを一八〇度覆すものだ。しかも首切りや不当労働行為を承認するという議論は、路線や考え方の違いで済まされるものではない。

それを闘争団や組合員に何ひとつ相談することもなく独断で決定すれば、団結が崩れ、不信感だけが醸成されるのは当然の帰結だと言わざるを得ない。政権党をバックにした臨大の強行こそが巨大な暴力だ。その責任こそが問われなければならない。大会後のシンポジウムで闘争団の家族は次のように訴えている。「(本部は)私たちを暴徒呼ばわりするけれど、最初に暴力を振るったのは本部です。私たちは崖から突き落とされた気持ち。ただただんです。私たちは悪くない。まだまだ頑張れます。力を貸してください!」。

### 戦列を鍛えよう

今求められているのは、この困難を生みの苦しみとして、より鍛えられた新たな団結と戦列を創りあげることです。労働組合の自主性を放棄して政府与党に嘆願することではなく、われわれの闘いが生みだした宝として闘争団を守り、組合員の団結に依拠して闘いぬくことだ。

われわれは、この正念場にあたって、一〇四七名闘争の勝利と闘う労働運動の再生をめざし、八・二二労働者集会を呼びかけ、八・二二労働者集会を呼びかけよう!

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!